

# 四年目を迎えて

# 土岐・運・来

乗馬会をやろうと会を始めてから早いもので四年目を迎えました。最初は乗馬会が本当に開けるものなのだろうかと、不安な気持ちで始めました。しかし、タウンニュースという地域情報誌に、「乗馬会を手伝ってくれる人集まつてください。」という記事を載せてもらいうと、すぐに何人かの人が連絡をしてくれました。また活動を始めると、高橋さん（江の浦サドルバック）というレストランを経営）と出会い事ができました。高橋さんは、馬を飼い始めたところでした。そして、高橋さんの協力で、第一回乗馬会の前に事前講習会を開くことができました。

二年目は「朝市の会」や「フリーマーケットの会」の活動に加わる形で参加しました。ほぼ二ヶ月に一回乗馬会を開くことができました。

三年目は前年の実績をもとに市から一年を通じて後援をしてもらい、結果としてほぼ三ヶ月に二回

できました。またこの年にはともび財団小田原市福祉協議会の助成（六万一千円）を受け取る事ができました。

さて四年目の今年はどうなるのでしょうか。今年は基本的に毎月第一日曜日に乗馬会ができるようになりました。また神奈川心身障害児福祉基金財団から『心身障害児に関する先駆的事業に対する助成』（一五万円）が決定しました。

今年、やらなければならぬことが三つあります。

第一に特定非営利活動法人（NPO）登録に向けての書類の整備、特に会則の整備と登録です。できれば八月ぐらいまでには会則のたたき台を作らうと思います。

第二にこの会の馬を持つことです。

第三にこの会の方向性です。今年は毎月歴史見聞館隣（一の丸跡）で乗馬会ができますが、これがいつまでできるか分かりません。そこで、今考へている方向性は、「ある場所に乗馬ができる所を作つてしまおう。」という方向と、「現在ある施設に働きかけて、今後の活動ができるようにしよう。」という方向です。

方向性について、皆様のお考えをお寄せ下さい。

今年も更なる飛躍ができるような活動をしていきたいと思います。

（代表 桜井 広利）

会報	「土岐・運・来」 第十一号
発行	自然・馬・人の会
発行日	二〇〇〇年六月十一日
ただいまの会員数	五〇家族



# 11000年度はどうなるの？

## 新年度運営委員の紹介

皆さん、年度が新しくなりました。継続手

続きはお済みですか？ 新しく入られた方にあわせてこの会の『今年の大聲』について紹介します。最終ページにも説明がありますが、この会は会員の声、そしてその中でも「運営委員になつてやろうじゃん」とやや大

声をだしてくれた人々により大筋動いていきます。今年もフレッシュな（？）人々が声をあげてくれました。その産声（？）をお聞き下さい。

「ハイ！代表ります！ 夢語ります！ 皆さん」 いらっしゃる 桜井・ヨリ

「庶務しょむ しょもないのよね、結局私達がなんでもやる」とになるのよね ますみ・中村

「総務そーむ言つても力仕事は結局俺なんだよね。いや、今年は研修会も充実させるぞ！」 関野

「会報つくります！」 意見、感想は事務局まで 田中真つつかん・近藤カリンバ

（本当はお祭り係がいいと思つてゐる。誰か一緒に今年もお祭りしよう！）

〔②特別会計：電卓持つてよりお玉持つて方が多いのよねえ。お手伝いさん募集中！」

森・竹村

「馬の事をもっと知つてもらいたい係。モクモクやります」

北村

「最後に、運営委員の意見番をやります。きびしい意見がバンバン言つちやいます。」

天野一家（謙一・恵子・美穂）

まだまだ 100人まで運営委員を募集しています。どなたも大声はりあげて（いえいえ、きれいな声も）参加して下さい。次回の運営委員会は6月10日夜8時より桜井宅にて（事務局に問い合わせ下さい）

当日受付で乗られた方は、そんな気分だったのではないでしょうか。

「今年度のスタートは、順調に滑り出しました」と言いたいところですが、ボランティア不足で、乗馬会が危ない状況でした。

前日の研修でサドルバッグに行くと、「自然・馬・人の会」を始めるための準備をしていたときにお世話になつた方に数年ぶりに再会できました。その方は、世田谷にお住まいなのですが、思わず、「明日乗馬会なんだけど、ボランティアが足りなりなくて困つている。手伝つてもらえないかしら？」と声をかけてしまいました。すると、「いいわよ」と即座にお返事して下さいました。その他にも数人にお電話をし、不参加だったところを無理をお願いし、手伝つていただきました。

四月九日の乗馬会から

## 乗馬会の危機

参加人数 四九名  
会員 一六八名  
ボランティア 二三三名

青空のもと、桜の花の咲き乱れる中で乗馬会が行われました。

「桜の花に誘われ来てみたら、馬にまで乗れただ」

「今日は幸せいっぱい！」

「今年度のスタートは、順調に滑り出しました」と言いたいところですが、ボランティア不足で、乗馬会が危ない状況でした。

前日の研修でサドルバッグに行くと、「自然・馬・人の会」を始めるための準備をしていたときにお世話になつた方に数年ぶりに再会できました。その方は、世田谷にお住まいなのですが、思わず、「明日乗馬会なんだけど、ボランティアが足りなりなくて困つている。手伝つてもらえないかしら？」と声をかけてしまいました。すると、「いいわよ」と即座にお返事して下さいました。その他にも数人にお電話をし、不参加だったところを無理をお願いし、手伝つていただきました。

さがみ信金の方の「都合」がつかなくなつてから、ずつとこの状況です。乗馬会が危機です。

ぜひ、皆さんのお知り合いの方にお声をかけ下さい。

でも嬉しい話もありました。この報告の始めをお読みいただきてお分かりだと思いますが、当日受付の騎乗者が一六八人もいました。これは、青空と桜のお陰だけではありません。いつも馬を連れてきてくれる吉川さんが、場に馴らすために連れてきていた茶馬（ちやま）となすなが落ち着いたといって、当日乗りに提供して下さったからです。しかも吉川さん自身ずっと引き馬をしてくれました。吉川さんと一緒に引き馬をしてくれたのが道行（サドルバッカの高橋さんの息子）さんです。

この時の収入で、赤字の乗馬会の穴埋めを

したり、研修会を開く助けになります。

また、会員の野沢さん、野坂さん、渡辺さん、いつも手伝いありがとうございます。

会員の皆さん、たとえ、一時間だけでも結構です。いろいろな仕事があります。お手伝いいただける人は、葉書で申し込んで下さい。当日お声を書かけていただいても結構です。よろしくお願ひします。

（中村）

## 参加人数

会員	四二名
当日受付	五〇名
ボランティア	三三名

## ——かわいい馬たち——

五月一四日の乗馬会から



まつた私だつた（笑）。  
前日の雨に少々の不安を抱えながら迎えた乗馬会当日。晴天！ とまではいかなかつたが、いつもお天気に恵まれているこの会は、本当に晴れ男、晴れ女、もしかして晴れ馬？ が多いと嬉しく思つた。

当日は他の行事と重なつてしまつたこともあり、人数は少なめだったが、それでも馬大好きの子達（どんな年齢でも馬上での表情は……？）が笑顔で乗りに来てくれる姿を見る嬉しくなつてくる。そしてみんなを乗せるために、朝から元気いっぱい張り切つているオーレ、ミルキー、ハスキー、ツクシたちも可愛くてしかたがない。

先月の桜の花の時とはまた違ひ、新緑のきれいな清々しい雰囲気の中、みんなの可愛らしい声（どんな年齢でも馬上でのその声は……）が響き、とても微笑ましい乗馬会になつたと思う。

そして、この会に足を運ぶたびに広がる人の輪のおもしろさ。常連のボラさんに新しいボラさん。小さな糸ラさんもいたりと、子どもから大人まで本当に色々な人がいて、楽しい事をたくさん知つて……。どんどんこの会にハマツテしまつてている私。これから、もつともつとハマツテいきそう。さあー、子ども達（？……）に負けないぐらいの元気パワーで、今度もたくさん楽しむぞー！

（きつちやん）

※ (一) 内は編集部注

# 研修会より

二月に行つた研修（実技十座学）で、皆さんから出された「もつと研修会を開いてほしい」という要望にお応えして、四月から月一回（第三水曜日）研修会を開いています。

- 第一回 乗馬会について質問や「要望がすでに行われました。  
第二回 馬具馬装について（濱本担当）

## 十一号 来・運・岐

次回（第二回）は、

月日 六月二二日（水）

時刻 一〇時から二二時まで

場所 桜井宅

内容 『馬と健康社会』に参加して

担当 出中真

みなさまのおいでをお待ちしております。

また、「こんなことについて研修をしてほしい」という「要望がありましたら、運営委員会まで御連絡下さい。

以下は、第二回研修会の講師役でもあつた濱本さんのレポートです。

第一回研修会は、「馬、馬具等の名称や馬装」というテーマで行いました。「ボニーってどんな馬ですか?」「大人になつても身長（体高）一四七センチメートル以下の馬のこ

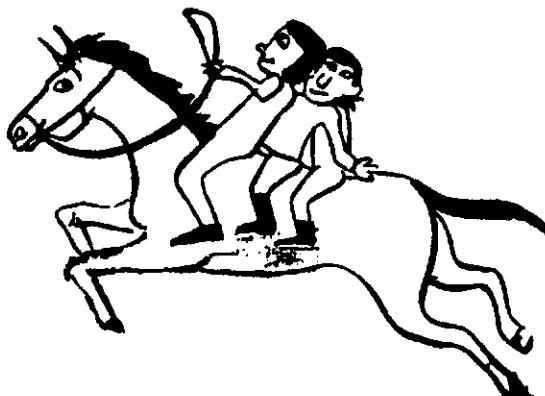
とをいいます。馬の身長は、き甲（鞍をつけるときに目安にする首と背の境の骨）の位置で計ります」）のような日頃の疑問を中心にして、馬とともに仲良くなるために役立つ話題が数多く出されました。研修会の資料（馬体の名前はみや鞍の付け方、簡単な馬に関する用語）に関心のある方は、6月の乗馬会の受付で声をかけてください。（濱本）

ツチリ乗れるわけじやない。また、聞くところによると、寄の動物広場で馬に乗っているらし。それなら今日は物足らないんじやないかなあ。」と私は思つた。  
でも、次の時にもまた会う事ができた。なんだかうれしくなつた。私の方が何ヶ月か来なかつた間に、彼はもうすっかり中学生ボランティア同士で和んでいた。小さな驚きだつた。乗馬会の後、二人で反省会の準備をしながら、学校より楽しいや……」「えつ……」「乗馬会の騎乗料はお小遣いから出してるんだよ。」「ええつつ!!」「すごい! これは何があるぞ! 私は気になる少年に原稿を依頼した。……が短い返事がかえつてきた。

——木下まよべえ様 この間 乗馬しにいってみたら馬が予想よりいたのがうれしかつたです。また行つて乗り、馬とぶれ合つてどんどん馬と仲良くなつて、もつと楽しくしたいです。 石坂航太 ——

大人はつい、何についても講釈をならべたくなる。そんな私に彼は「言葉なんかじや、あらわせない」と言われた気がした。彼らはちがう目で、彼らの日の高さだと見えるものをこの会のなかに見つけている。（ちょっと知りたい気もする。）ますます気になる少年、航太君は自然・馬・人の会中学生ボランティアの白一点である。

（まよべえ）



乗馬会にはいろんな人が集まつてきます。

彼もそんな一人でした……。

**気になる少年**

彼は、冬のある日曜日に一人でやつてきた。翌月のボランティアの研修会ともやつてきた。寄（松田町）から來てくれたのに馬にバ

## 2000年度「自然・馬・人の会」年間計画

2000年4月1日

## 乗馬会

月 日：月1回（原則的に第2日曜日）

4/9、5/14、6/11、7/9、8/13、9/10、10/8、

11/12、12/10、2001年1/14、2/13、3/11

時 間：9:30～15:30（運営委員は、準備・片づけのため7:00～16:30）

場 所：小田原城址公園歴史見聞館隣

馬：4頭（事前受付用3頭 当日受付用1頭）

参加費：事前受付1人1000円 当日受付500円

## タイムスケジュール

時 刻	人	活 動
7:00～8:15	運営委員 ボランティア	会場の設営（テント・案内板） ボランティアは、7:30集合
8:15～9:00	運営委員 ボランティア	準備（馬装も） 乗馬・サポート講習（説明と実技）
9:00～9:30	運営委員 ボランティア	休憩・準備
9:30～10:30	運営委員 ボランティア 参加者	乗馬 人参あげ
10:30～11:00	運営委員 ボランティア	個人記録・休憩・準備
11:00～12:00	運営委員 ボランティア 参加者	乗馬 人参あげ
12:00～13:10	運営委員 ボランティア	個人記録・昼休み・準備（馬装も）
13:10～14:10	運営委員 ボランティア 参加者	乗馬 人参あげ
14:10～14:40	運営委員 ボランティア	休憩・準備
14:40～15:40	運営委員 ボランティア 参加者	乗馬 人参あげ
15:40～16:40	運営委員 ボランティア	個人記録・片づけ

## 実技講習・机上講習

月 日：8月・2月の第2日曜日

場 所：小田原市城址公園歴史見聞館隣

時 間：9:00～14:15

## 机上研修

月 日：月1回（原則的に第3水曜日）

時 間：20時から21時まで

# 自然・馬・人の会つて？

——「んな会です——

——「んな活動をしています

□<sup>1</sup> 家族体験乗馬無料券を乗馬会に  
参加された時一枚差し上げます。

☆運営委員会：会員の中より自主参加。

☆ボランティア会員：年会費なし  
役割分担をして会の運営にあたります。

小田原城址公園内歴史見聞館東側にて  
・事前受付：個人プログラムに合わせ仲間と

共に継続して乗馬を楽しみます。

騎乗料……一〇〇円

・当日受付：乗馬が初めての方でも体験でき  
るコーナー。

2周引き馬料……五〇〇円

☆小田原市への働きかけ  
平成子どもの森公園（仮称）の運営計画

に要望を出しています。

☆出張乗馬の応援

サドルバサクの馬が、他乗馬会、幼稚園  
のボニー教室に出向く時、会報でお知ら

せし、協力していきます。

☆運営委員会

この会を運営、進行していく為に月一回  
程度、話し合いを持ちます。

☆お問い合わせ

〒二二五〇・〇〇四五

小田原市城山二・三・二二一

自然・馬・人の会代表 桜井 広利

T E L ○四六五・三二一・一三〇八

F A X ○四六五・三二一・一三三三

☆年会費・協賛金などの振込先  
便振替口座〇〇二七〇・四・七九九四四

印刷費等に使われます。  
□会報（年四回）・乗馬会日程（毎  
回）をお届けします。

## 第十一号 来・運・岐

馬がいる。子供がいて、おばあさん、おじいさんがいる。車椅子で来た人が背筋を伸ばして馬に乗っている。仲間とやつて来てサイドウォーカーをやっている若者が声をかけている。馬が駆け出すと歎声があがる。笑顔が広がる。補装具を足につけた子が、ここで出会った友だちとボール遊びをしている。取りそここなつて転がったボールを一緒に来たお父さんお母さんがあわてて取りにいく。豚汁のみその香りが、ぷーんとただよう。昼食を囲むテーブルの向こうで、アサラト、カリンバなどの楽器を鳴らして遊んでいる人たちがいる。本を読んでくれる人のまわりで子供が一心に耳を傾ける。

これが小田原の乗馬会の風景です。乗馬会には誰もが参加できます。誰もが同じ場所でお互いに関わりを持つたり持たなかつたりしながら、それでも目のすみにそれぞれを感じながら、それぞれの豊かな時を過ごしている。そして参加する人はみんなそれぞれに楽しんでいます。そのこと——みんな一緒ということが、今の時代にはとても大切な事だと思うのです。そして、みんな一緒ということからどんな発想の出来事が生まれてくるのか、とても楽しみです。本当にこれから何かが動き出していきそうな気がします。あなたもそれをわたしたちと一緒に体験してみませんか。

——「んなメンバ——

資金で構成しています

☆会員：家族単位で年会費二六〇〇円  
(4月切り替え) 会費は通信費・事務費・

印刷費等に使われます。

□会報（年四回）・乗馬会日程（毎

回）をお届けします。